

受験
番号

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

2021 年度

第8回 会社決算書アナリスト試験

問題用紙

(試験時間 1時間30分)

—受験者への注意事項—

1. 試験開始の合図があるまで、問題用紙は開かないでください。
2. 解答は、定められたところに、誤字・脱字のないよう、ていねいに記入してください。
3. 答案の記入にあたっては、黒鉛筆または黒シャープペンを使用してください。
4. 受験番号は、右寄せで記入してください。受験番号・氏名を記入していない場合は、採点の対象とならない場合があります。

数値計算上の注意

1. 各指標について、数値は、算出結果のみを解答すること（計算式は不要）。
2. 答は、小数点が出ない場合には、そのまま答え、小数点が出た場合には、最終数値の小数点第2位を四捨五入し、第1位まで解答すること。例えば、9.45%の場合は、「9.5%」、10.34回の場合は「10.3回」と解答すること。
3. マイナスの場合には、数値の前に「△」をつけること。例えば、マイナス9.5%の場合には、「△9.5%」と解答すること。損失の場合も同じく、△を付け、利益の場合にはにつけない。

第1問

次の1. から10. の文章について、正しいものには「○」、誤っているものには「×」を解答欄に記入しなさい。

1. 企業の評価法としての趨勢分析と企業間比較分析を比較すると、当該企業の業界における位置付け、その企業の業界での優劣を判断するためには、趨勢分析が適格的である。
2. コロナ禍で、資金繰りに困り、仕入先と良好な関係を築くために長期にわたって保有していた株式（投資有価証券）を手放した時の売却損益は、損益計算書の特別損益の部を見ればわかる。
3. 営業資産営業利益率の計算において、運転資金つまり営業上必要な資金の調達のための費用すなわち利息も算入される。
4. 売上高売上総利益率（粗利率）と売上高売上原価率（原価率）を合算すると、100%になる。すなわち、計算上だけで見ると、粗利率と原価率は表裏一体の関係にある。
5. 売上高（1日平均売上高）に変化がない場合、売上代金のカード決済が増えると、売上債権回転期間が長くなる（悪化する）。
6. 棚卸資産回転率が悪くなった場合、売買目的有価証券の増加もその原因となる。
7. 設備投資のために借り入れた長期借入金の利息は総資産経常利益率を悪化させる。
8. 新規出店のための店舗の建設（建設仮勘定の計上）は、使用資産経常利益率を低くする（悪化させる）。
9. 総資産負債比率が高まると、純資産負債比率は低くなる。
10. 企業が支払った法人税の金額は、キャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フローの部を見ればわかる。

第2問

次の<資料>は、ある自動車部品メーカーの決算書(但し、この出題のために必要な部分のみを表示している)である。あなたは、この会社の経理部長である。製造部長から昇進した新任の専務とあなたは、株主総会の準備のために次の会話をしている。これについて、問1と2に答えなさい。

問1 ()の①から⑥の指標を計算しなさい。

問2 ()のaからcに入る適切な語または文の記号(アからウまたはア、イ)を記入しなさい。

<資料> X社の決算書

損益計算書			
(単位:百万円)			
	×1期	×2期	×3期
売上高	680,000	660,000	570,000
売上原価	605,000	590,000	512,000
売上総利益	75,000	70,000	58,000
販売費及び一般管理費	41,000	46,000	48,000
営業利益	34,000	24,000	10,000
営業外収益	6,800	6,300	8,600
営業外費用	2,000	5,700	4,600
経常利益	38,800	24,600	14,000
特別利益	1,400	100	600
特別損失	8,000	6,000	400
税引前当期純利益	32,200	18,700	14,200
法人税等	9,660	5,610	4,260
当期純利益	22,540	13,090	9,940

貸借対照表				
(単位:百万円)				
	×0期期末	×1期期末	×2期期末	×3期期末
流動資産	314,000	318,000	284,000	294,000
(うち、現金及び預金)	(95,000)	(98,000)	(74,000)	(79,000)
(うち、たな卸資産※)	(41,600)	(46,900)	(47,400)	(47,300)
固定資産	260,000	260,000	255,000	250,000
(うち、有形固定資産)	(160,000)	(170,000)	(180,000)	(175,000)
(うち、無形固定資産)	(5,000)	(4,000)	(3,000)	(3,000)
(うち、投資その他の資産)	(95,000)	(86,000)	(72,000)	(72,000)
資産合計	574,000	578,000	539,000	544,000
負債合計	200,000	210,000	170,000	190,000
純資産合計	374,000	368,000	369,000	354,000
(うち、株主資本)	(264,000)	(258,000)	(255,000)	(255,000)
(うち、評価・換算差額等)	(110,000)	(110,000)	(110,000)	(110,000)
負債純資産合計	574,000	578,000	539,000	544,000

※ なお、「たな卸資産」は、表示科目である「商品及び製品」、「仕掛品」、「原材料及び貯蔵品」の合計額で示している。

<会話文>

- 専務 「部長。この前は、会社決算書アナリスト試験のテキスト、ありがとう。早速、読んでみたよ。最近、会社の利益構造を見る株主が増えてきていると言われているね。そこで、これに備えようと思ひ、君を呼んだんだ。ただ私は、これまで製造部門に関わっていて会計に弱いから、今日はテキストにしたがって決算書の見方を確認してくれないかね。」
- 部長 「もちろんです。<資料>は当社の決算書です。これを見て、どう思われますか？」
- 専務 「業績は損益計算書を見るんだよね。最終利益の当期純利益はもちろん、段階利益が経年的に悪くなっているね。」
- 部長 「専務、収益性分析では比率を見ることが重要です。そして、株主総会ですから、まず、株主の立場での収益性分析をする必要があります。」
- 専務 「それは、株主資本当期純利益率（ROE）だったよね。」
- 部長 「そうですね。それでは、×1期から×3期にかけてのROEはいかがですか。」
- 専務 「ROEはそれぞれ、×1期が8.6%、×2期が5.1%、×3期が（ ① ）%になるね。結果を見ると、我が社の業績は a（ア. 上昇傾向 イ. 安定的な傾向 ウ. 下降傾向）にあるね。」
- 部長 「ROEは、さらに分解できます。どのように分解できましたっけ？」
- 専務 「それは、総資産当期純利益率（ROA）と資本の構成に分解できたよね。資本の構成は利益獲得活動には直接関係ないから、ROAを見なければならぬね。それに資本の構成は計算すると、ほぼ横ばいだよ。」ROAはそれぞれ、×1期が3.9%、×2期が2.3%、×3期が（ ② ）%だ。これを見ると、ROAは b（ア. 上昇傾向 イ. 安定的な傾向 ウ. 下降傾向）にあるね。」
- 部長 「おっしゃる通りです。そして、当社の利益獲得活動の特徴を知るためには、ROAを、利益率と回転率に分解していかなければならなかったですよ。ここでは、利益率として総収益当期純利益率、回転率として総資産回転率を見てみましょう。」
- 専務 「計算すると、総収益当期純利益率は、×1期が3.3%、×2期が2.0%、×3期が（ ③ ）%、総資産回転率は、×1期が1.2回、×2期が1.2回、×3期が（ ④ ）回と推移しているね。」
- 部長 「数値を見ると、利益率が下降傾向にあるのに対し、回転率は安定的な傾向です。ということは、専務が最初に言われた、当社の損益計算書上の各利益額の低下の原因は、利益率の方にあると言えますね。」
- 専務 「確かに、利益を生み出す要である売上高が下降しているね。」
- 部長 「ちなみに、売上高営業利益率を計算してみますと、×1期が5.0%、×2期が3.6%、×3期が（ ⑤ ）%となります。」
- 専務 「私は、製造部門にいたので、テキストに書いてあった製造部門の効率性をみる売上高売上原価率を計算してみよう。×1期が89.0%、×2期が89.4%、×3期が（ ⑥ ）%となり、株主総会で質問が出るかもしれないかもしれない利益に対する製造部門の影響は c（ア. 非常に大きい イ. ほとんど変わらない）ことになるね。売上高と販売費及び一般管理費の推移を見ると、営業には、がんばってもらわなければならないね。市場調査はもちろん広告宣伝活動も指導しなければならないね。専務として。」

第3問

次の<資料1>は、小売業を営むX社の損益計算書から得られる指標の一部を示したものである。

<資料1> X社の損益計算書及びキャッシュ・フロー計算書から得られる指標の推移（一部）

(単位：百万円)

	×1期	×2期	×3期	×4期	×5期
売上高	239,266	251,503	267,175	299,616	340,870
経常利益	8,729	15,778	15,831	19,434	23,646
当期純利益	4,757	8,402	10,594	11,839	14,198
キャッシュ・フロー (現金及び現金同等物の増減額)	4,960	11,047	△2,631	△2,654	△1,475

過去5年間の売上高、経常利益、当期純利益の推移を見ると、急速に業績を向上させていることがわかる。一方で、×3期からのキャッシュ・フロー（現金及び現金同等物の増減額）がマイナスとなっている。このことを不思議に思ったあなたは、直近の×4期と×5期の安全性について調べることにした。<資料2>貸借対照表および<資料3>キャッシュ・フロー計算書（内訳）を用いて、問1から3に答えなさい。

問1 X社の×4期末と×5期末の流動比率を計算し、次の文章の（ ）aとbに入る適切な記号（アとイ）を記入しなさい。

X社の流動比率を分析した結果、 a（ ア. 短期 イ. 長期 ）の安全性は b（ ア. 改善 イ. 悪化 ）している。

問2 X社の×4期末と×5期末の総資産負債比率を計算し、次の文章の（ ）aとbに入る適切な記号（アとイ）を記入しなさい。

X社の総資産負債比率を分析した結果、 a（ ア. 短期 イ. 長期 ）の安全性は b.（ ア. 改善 イ. 悪化 ）している。

問3 業績が向上しているX社のキャッシュ・フローがマイナスになっていることが気になったあなたは更に分析を行うことにした。そこで、×4期と×5期のフリー・キャッシュ・フロー（FCF）を計算してみた。この値を解答欄に記入しなさい。

問1、問2の指標計算と、このFCFの計算結果および損益計算書と貸借対照表の数値を踏まえ、次の文章の（ ）に入る最も適切な文の記号（アからウ）を記入しなさい。

×4期のFCFと×5期のFCFの計算結果は、資金的に見ると、財務活動に向けられる余裕があるということである。そのFCFの数値が×4期から×5期に向かい、営業活動によるキャッシュ・フローの値にあまり変化がないにもかかわらず減少している一方で、×5期の財務活動によるキャッシュ・フローもマイナスになっていることは、貸借対照表情報に損益計算書情報も加えて判断すると、X社が、負債の減少を計るとともに（ ア. 旧来の設備等に加えて更なる新規の投資を行う イ. 新たな設備等に投資する一方で旧来の設備等は処分する ウ. 旧来の設備等を処分し営業活動を縮小する ）政策を採っているとと言える。

<資料2> X社の貸借対照表

貸借対照表

(単位：百万円)

	×4期末	×5期末		×4期末	×5期末
資産の部			負債の部		
流動資産			流動負債		
現金及び預金	71,525	69,810	買掛金	21,897	22,161
受取手形及び売掛金	16,397	17,546	短期借入金	13,854	14,598
商品及び製品	6,456	9,065	1年内返済予定の社債	1,543	10
仕掛品	325	298	リース債務	7	10
原材料及び貯蔵品	1,427	1,222	未払法人税等	4,206	4,812
その他	2,827	4,227	賞与引当金	306	299
貸倒引当金	93	14	資産除去債務	51	10
流動資産合計	98,864	102,154	その他	5,451	5,006
固定資産			流動負債合計	47,315	46,906
有形固定資産			固定負債		
建物及び構築物	31,485	18,310	社債	1,454	0
減価償却累計額	18,301	6,879	長期借入金	42,343	34,690
建物及び構築物（純額）	13,184	11,431	リース債務	9	7
機械装置及び運搬具	19,633	22,729	繰延税金負債	108	128
減価償却累計額	10,284	11,701	退職給付に係る負債	547	612
機械装置及び運搬具（純額）	9,349	11,028	預り保証金	6,179	6,048
土地	12,905	10,353	資産除去債務	1,289	332
リース資産	108	22	役員株式給付引当金	23	39
減価償却累計額	93	15	その他	319	144
リース資産（純額）	15	7	固定負債合計	52,271	42,000
建設仮勘定	5,256	7,686	負債合計	99,586	88,906
使用権資産	5,016	2,009	純資産の部		
減価償却累計額	4,072	1,469	株主資本		
使用権資産（純額）	944	540	資本金	64	64
有形固定資産合計	41,653	41,045	資本剰余金	8,405	8,539
無形固定資産			利益剰余金	47,118	60,243
のれん	1,282	22	自己株式	9,641	9,466
その他	682	524	株主資本合計	45,946	59,380
無形固定資産合計	1,964	546	その他包括利益累計額		
投資その他の資産			その他有価証券評価差額金	1	13
投資有価証券	497	1,977	為替換算調整勘定	1,671	1,634
長期貸付金	1,205	256	その他包括利益累計額合計	1,672	1,621
繰延税金資産	2,076	1,769	新株予約権	787	1,510
敷金及び保証金	3,551	356	非支配株主持分	5,507	0
その他	1,307	292	純資産合計	50,568	59,269
貸倒引当金	963	220	負債純資産合計	150,154	148,175
投資その他の資産合計	7,673	4,430			
固定資産合計	51,290	46,021			
資産合計	150,154	148,175			

<資料3> X社のキャッシュ・フロー計算書から得られる指標の推移（内訳）

(単位：百万円)

	×4期	×5期
営業活動によるキャッシュ・フロー	19,217	19,543
投資活動によるキャッシュ・フロー	△9,498	△17,314
財務活動によるキャッシュ・フロー	△12,373	△3,704

第4問

コロナ禍の中、政府の家計に対する度重なる資金援助により思いもかけないお金ができたYさんのお母さんは、Yさんが決算書アナリスト試験の受験勉強をしていることを知り、株式投資について教えてくれるよう依頼した。次のお母さんとYさんの会話について、問1と2に答えなさい。指標は<資料>に基づき計算すること。

問1 () 中の①から④の指標を計算しなさい。

問2 () aとbに入る適切な語の記号を答えなさい。

お母さん 「また、政府から補助金がきたわ。お母さんは、昔、簿記の勉強をしていたから、家計の管理は問題ないの。そこで消費しないで、株式投資をしようと思いついたの。何しろ今の状況では、将来が不安だし、投資をして前の首相が言ったように自助しなければならないからね。」

Yさん 「それじゃ、教えてあげるよ。」「<資料>を用意したので、これで説明するよ。お母さんにはテキストを見せるから、指標を計算してみてよ。」
「テキストでは、株式投資の目的として、インカム・ゲインとキャピタル・ゲインの獲得が挙げられているよね。インカム・ゲインは株を保有し続けることにより得られる利益で、キャピタル・ゲインは株式を売って得られる利益だよ。」「銀行に預金していると利子が付くよね。同じように株を保有していると得られるのがインカム・ゲインつまり配当金だ。」
「配当金は実数ではなくて利息と比較するために比率でみるのが重要なんだ。」

<資料>

	Q社	
	期首	期末
資産合計	772,534 百万円	754,167 百万円
負債合計	570,536 百万円	556,768 百万円
純資産合計	201,998 百万円	197,399 百万円
	当期	
当期純利益	16,246 百万円	
剰余金の配当額	10,804 百万円	
	株価と株式の情報	
期末株価 (終値)	2,060 円	
期末発行済株式総数	223,660 千株	

お母さん 「ああ、配当利回りのことね。これを計算すると、(①) %になるね。銀行預金なんかより遙かに良いね。」

Yさん 「配当は企業の利益^(注)から支払われるので、企業が利益のうち、どれだけ配当に向けたかも知っておく必要があるよ。これにより企業がどれだけ余裕を持って配当を支払っているか、別の見方をすると、株主に気を遣っているかを知ることができるよ。」

お母さん 「それが配当性向ね。計算すると、(②) %になる。」
「それはそうとして、このQ社、こんなに良いのなら、早速、購入しよう。」「でも、株価は変動するでしょう。だから、安い時に買いたいよね。」

Yさん 「それを判断するのが、株価純資産倍率と株価収益率だよ。」「期末の株価で計算してみようよ。」

お母さん 「株価純資産倍率は (③) 倍、株価収益率は (④) 倍になるわ。」

Yさん 「株価純資産倍率は倍率が低ければ低いほど a (ア. 割高 イ. 割安)、株価収益率は高ければ高いほど b (ア. 割高 イ. 割安) と言えるよ。」

お母さん 「それでは、株価が低い時に買って、高い時に売って儲けようかな。」

- Y さ ん 「その儲けがキャピタル・ゲインだよ。」
「ただ、このゲインを得ようとする、毎日、株価の動きを見る必要があるかもね。」「ところで、お母さん、投資の資金、元々政府から得たものでしょう。そうしたら、もう少し社会のために使えない？」
- お母さん 「そうね。今、世界は地球温暖化防止とか企業の責任が話題になっているものね。あなた達の将来を考えると、地球に優しい活動をしている企業に関わりたいわね。」
- Y さ ん 「それを見て投資するのが、最近、話題になっている ESG（環境・社会・企業統治）評価による投資だよ。」「ただ、これは、今、お母さんに計算してもらった指標とは違う視点での評価も必要になるけどね。最近では、アニュアル・レポートで、この評価に触れている企業も増えてきているよ。一度、見てみたら、面白いよ。」

(注) 正確には、過去の利益の蓄積つまり利益剰余金。なお、資本剰余金からの配当は考えない。

